

名古屋府城志

七

共
四冊

第 第

九 月

品目	年月日	製	調	費
場所	昭和	年	月	日
課				号

295
ヒ
1-7B



古儀云、西の斎、斎の膳、膳を千人斬、乃の太刀
河へ流、けりと、形二羽、くつ、て、上、形、の、は、角、の、縁
あり、し、故、工、ウ、ク、とい、り、お、徳、け、於、多、し
 又、代、く、信、つ、く、お、信、氏、の、家、を、久、の、利、切、も、七、切
之、は、ち、と、出、た、我、の、ち、も、七、て、の、太、刀、の、日、お、入、念、山、を
し、故、出、中、の、ち、の、政、太、初、文、一、敵、り、り、ち、一、分
代、と、山、家、の、名、と、と、る、ん、是、聖、徳、寺、の、形、の、云
 但、日、名、の、刀、り、云、一
一、鹽、元、日、府、城、東、照、言、舞、樂、自、敬、公、在、也、三、時、大、槩、木
 定之

四月十六日

平調 ヒラウテウ 五常樂 ゴジヤウラウ 音樂 ニウスイ 拾担卒樂 シウタンソウラク 音樂 ニウスイ 拵振 セウシンブ 笛鼓
 大食調 オウシキウ 太平樂 タイヘイラク 有舞
 高森音取 コウセンオント 拍拵 ウチウツ 有舞 陵王 リョウオウ 前乱序笛鼓 マエランジヨウフエ 有樂
 糸舞 イトマシ 有舞 長慶子 チヤウケイシ 音樂
 毎年わけ為 トシトシニ 誠公請 マコトノミコノノリ 朝家樂官使得和曲
 打越賀殿林歌等 ウチワタセイノノリ 新舞

十七日朝音樂

平調音取 五常樂 太平樂 長慶子

神行音樂

慶雲樂

頤宮音樂

千返樂 夜半樂 賀殿

還御音樂

千秋樂 墨城樂

一又祇園之所本地 宍谷家口傳

牛頭天王本地 弟師佛 變身 天刑星

娑利來天女 本地 又 珠善菩薩

八王子 本地 八大觀音

合則為十一面 離則六觀音 加不定五器

于白衣觀音而為八尊

谷古屋龜尾山牛頭天王祠正體鏡形面中画牛

頭天王上画波利女左右画八王子 左四体 右四体

裏曰

奉施入

牛頭天王部正体

勤進沙門勝尊
并縁阿弥陀佛

正安二年壬寅四月十一日

案二西岳ハ後伏見院年号、但、其二年号也
二月廿四日、後二條院即位、明年壬寅十一月二十
一日改元乾元、至宝永五年戊子、凡四百七十年、
矣、此院飛ハ古物と云、天文元年、乃云、火ニ脱、
今ハ、此所ハ、亦幸也、又古中御子、及古風、
脈、
此院天永寺と建、
今代ニ目、
寺ハ、
字、
天永、
今、
山、
権、
天、
乃、

今代ニ目、
寺ハ、
字、
天永、
今、
山、
権、
天、
乃、

一 塚尻ニ尾城を築くは古木の葉に好む地誌
と云ふ所の中有日沙流と云ふ

一 一 塚乃 然るれども何れ祈禱せりすこと
塚をこぞ有えん主 改改改改と云ふこと 空無いを

多れ山臺地誌と云ふこと 山内老人傳と云ふこと 実ニ 山内乃

一心其本と云ふこと 禱祠乃系と云ふこと 山内乃
一 又云 初代より山内乃系と云ふこと 山内乃

信別 初代乃人云 初代乃人云 山内乃系と云ふこと 山内乃

一 又云 初代乃人云 初代乃人云 山内乃系と云ふこと 山内乃

一又云天王坊の南切ニ天刑星の画像云々此云々
秘像也云々ニ在り一面龍身云々文殊の画像と
描く○天刑星の身は天之王文殊の像利光天也
云々十一面ノ八大龍身の徳身八王子の如也
是云々祇園云々此云々此云々

一云々何大云々西云々此云々此云々

貳公の代云々此云々此云々此云々

南云々此云々此云々此云々

尾公云々此云々此云々此云々

此云々此云々此云々此云々

此云々此云々此云々此云々

此云々此云々此云々此云々

此云々此云々此云々此云々

此云々此云々此云々此云々

此云々此云々此云々此云々

此云々此云々此云々此云々

大樹の由名代此云々此云々

天下の由名代此云々此云々

一又云天王坊の南切ニ天刑星の画像云々此をなま
秘像也云々ニ在り十一面觀音云々此の文殊の画像也
指す○天刑星の牛耳天玉文殊の佛利氣天女
即ち十一面ハ天觀音の徳力八王子の御地なり
是より祇園云々此の地也云々

一之九何大も西と云々此の地云々

戴公

戴公の代と云月日業初と云云

南の石を云々此の地云々

尾公毎年二月十日少燈り云々此の地云々

此の地云々此の地云々

一那古打城今川右三州氏是幕末之病後也
藏内酒房是後馬奪之任也也天文堂平信
主三健生口丁亥年河元後河浩元平四月
河浩所之藏内是古平信友天文九年七月廿二日
壬子人ぬりく屋津
護新時法義院七親とゆと奪上くあや坂升大船ゆ口た保堂
藏内孫之任先信友の為ニ或は謀知也奈
七し河三宗一信也河内之攻く奪をて奪し
ゆと大奪く病後く是初也ゆ信先ニ按
さし初りこま年上り信先王家人坂升孫
つるあ殺信也林法源古任揚とく初有地ゆ
監せしる孫ゆ二河年上り信源もま年上り
及は河内揚家市と議し藏内事十初信ゆ信也
奉し之任也二初八月信也とて信ゆ初也
ゆとと我名堀堀林直紀ゆと議せりゆけ
初議口三年二月信之任河と初し河内もを
道道し一公名古尾廢城とゆ道りゆもゆ
初名大城と再建ゆし一公名と成て公名
信初百代ゆ信基とゆ也

一那古野城今川右守氏是築而之病治之

癸酉酒房造後秀奪之任在也天文五年

壬辰三月五日壬午平河元後河清元年四月

河清元年三月五日壬午平河元後河清元年四月

尾張守藤原朝臣

の家光

壬辰三月五日壬午平河元後河清元年四月

二 比云 九日 府下 藤原 所 清 氏 の つら 井 の
物 原 の 水 面 光り さ ら さ ら ひ 糸 久 新 と る ん
い や う ー と 掃 け る こ ゆ き そ あ り と 山 名 の 洞 の つ
づ り し 程 底 と う ら の 夜 に ゆ ら ね り く 涯 水
交 り り こ 心 の り 朝 妻 の 山 の み 合 と 一 般 の
あ や 水 流 依 た ま そ 流 と な り ま ま り

一 尾張 国 新 波 の 邊 と し て 樹 の 氏 守 護 代 の 任
せ と し い の 時 の 始 ま り て 日 其 の 始 未 詳
應 永 の り い 吉 加 具 和 勇 の 入 る 建 敷 と い ひ し と

自 代 の 始 見 え し 世 の 小 古 六 年 新 波 の 邊 に 住 り し 社 務 力
皇 の 有 皇 和 入 る 社 務 と い ひ し 社 務 と い ひ し
名 と い ふ 又 千 秋 日 通 に 是 の 記 し 西 都 の 終 り し 年
る と い ふ お の 代 と 結 し て 樹 の 氏 守 護 代 の 任
け 付 ら し 樹 の 氏 守 護 代 の 任 と い ふ 見 え し ゆ ら ん 国 府 と い ふ 古
田 氏 永 亨 の 代 如 別 に 来 り り 早 く 家 我 志 家 の
古 下 知 物 と い ふ 又 い ふ

尾張 國 英 比 御 事 早 任 綿 日 次 國 九 り 海 の
の 教 と い ふ 可 言 は れ 仕 役 仕 役 南 山 の 教 費
之 中 候 仍 執 進 り 仕 下

十月七日 元河判 義淳 入道

海田 三河

海田 三河名 敏定 後 大和 与 結 也 是 中 別 与 後
和 と と 素 任 せ し 今 子 孫 也 而 受 と 連 し 也 中 別
と 結 也 と 凡 日 大 永 二 年 以 後 海 田 大 和 与 遠 勝
天文 二 十 二 年 の 以 後 海 田 大 和 与 勝 馬 と い ひ し 今
名 古 名 法 集 ち 古 河 文 河 と い は れ 天 海 田 大 和 与 勝
遠 勝 馬 也 凡 え 侍 ふ 以 是 因 也 亦 お 女 日 吳 一
也 也

一 秀 吉 捨 地 文 祿 元 年 遠 勝 國 五 十 七 方 一 千 七 百 二 十 七 石
一 名 古 名 鏡 と 割 り 海 田 三 河 と 云 也 と 云 也 河 と 云 也
教 將 軍 海 田 三 河 の 所 無 南 海 船 と い は れ し
浪 船 出 け ぬ と い は れ し り る 人 が う よ と 浪 入
と 浪 入 し 今 海 田 三 河 と 云 し と 云 ん
一 萬 松 寺 山 号 と 飛 山 嶽 山 と 云 古 傳 明 傳 心 教 と 云 也
第 一 山 号 と 云 也 教 曰 山 嶽 七 亦 山 也 豈 二 つ り と 云 也
福 止 り ん と 云 也 龜 山 嶽 杖 と 云 一 と 云 る と 云 也
梅 二 吳 邦 二 山 嶽 山 と 云 也 日 の 一 佐 多 一 關 加

吳山御山均列太山御山倣列白山御山及お解の
水山御山と欄列龜堂山瑞列灵堂山及南
安府羊山額山の乳ふ山等といひ山御といふ又
山御といふは我のふふに統るなり

一本別如日乃我皇の影の級多し是は丹精家の
故に之を法の故とす也王后藏田氏又皇の故に
由り西の故に三位中於家法次西よりなり
故に之より西よりなり故に制をせざるは上は別を
曰く是は古より皇の御母の故に神代氏の名あり

一かたはと云ふは尾尾乃有るは相の故に
横の故に那の故に文字の故に和の故に
鏡の故にと云ふは再より山御仁和なり西
尾尾と云ふは俗をとりと時カマの故に
ゴヤ是を考ね神列なりと云ふは尾尾と云
ふは長カの故にカの故にカの故に
山御仁和なりと云ふは尾尾と云ふは
一城内牛頭天王祠六よりなり西靈舎車車一輛
是は尾尾村廣所村後寺の車所なり

以河内縣界分之意 石名村唐介村は事昔の
今河内河通為花傳の四街よりよりし千原河
りよふ飾り名始今の河内河より名よ西の
及家心近原の長法家名なりしこも民程其の
比より名よ西の細りし 坂公の河内唐介
事よりし今河内河の西の村氏後り名よ西の
と河内河今河内河の西の村氏後り名よ西の
坂公の河内唐介
事よりし今河内河の西の村氏後り名よ西の
と河内河今河内河の西の村氏後り名よ西の

右車神あり名村は河内河の西の村氏後り名よ西の
と河内河今河内河の西の村氏後り名よ西の
坂公の河内唐介
事よりし今河内河の西の村氏後り名よ西の
と河内河今河内河の西の村氏後り名よ西の

一系鴨文多記の旗六中其内句陳と云ふ
指く代醉編二句陳宋仁宗祀六部ハ麒麟
為句陳又云句陳天也又樂書云祝之色有
五中畫葉横立引也云々
後ハ我々多々句陳ハ星名也及家其像と

此より見

○青鳥幡、朱雀幡、玄武幡、白虎幡、多勢幡、
魏乃經介紀、注今是を位幡と云、竹井信也四方
及畿内郡國
是を位幡、注今布祿福、注今非我、注今白之帝、注今位の所、
庭と、是を設き、注今四外來朝、注今如く我、注今尾府、
東照宮、注今山宗の、注今けお幡、注今勾疎幡と如く、注今七六幡、
之、注今あり、注今祿、注今の、注今けお幡、注今六幡、注今又と如く、
之所、注今祿、注今二幡と先、注今木竹、注今具分ち、注今七、注今わく、
又、注今の、注今けお幡、注今六幡と三所、注今祿、注今の、注今先、注今と如く、
陳て、注今の、注今置、注今了、注今し、○注今東照宮、注今の、注今天子、注今り

礼と官唯と、注今な、注今祝社、注今の、注今新、注今と、注今り、注今年、注今二、注今非、
一大光院、注今客、注今居、注今の、注今二、注今位、注今守、注今た、注今か、注今を、注今は、注今唐、注今る、注今こ、注今な、注今侍、
ち、注今の、注今送、注今り、注今根、注今、注今の、注今是、注今近、注今年、注今柱、注今と、注今後、注今と、注今や、注今こ、注今き、注今と、注今せ、注今り、
又、注今と、注今唐、注今の、注今勢、注今の、注今は、注今つ、注今は、注今江、注今比、注今の、注今黒、注今門、注今と、注今と、注今な、注今又、注今比、
并、注今氏、注今唐、注今の、注今江、注今比、注今の、注今唐、注今る、注今や、注今ト、注今太、注今島、注今某、
り、注今は、注今江、注今比、注今大、注今牛、注今の、注今門、注今は、注今飛、注今り、注今と、注今り、
一、注今熱、注今田、注今供、注今信、注今家、注今田、注今宿、注今古、注今院、注今文、注今と、注今其、注今中、注今、注今以、注今忘、注今七、注今年、注今十、注今月、
宿、注今村、注今の、注今別、注今又、注今京、注今に、注今二、注今年、注今と、注今其、注今中、注今の、注今別、注今と、注今是、注今皆、注今唐、注今の、注今氏、注今也、
唐、注今の、注今上、注今の、注今達、注今情、注今大、注今和、注今の、注今達、注今唐、注今の、注今好、注今

一尾列東照宮棟札写

王舎城

聖主天中天

如陵頻如声

哀哉衆生者

我々等今敬礼

從三位權中納言源朝臣美我利

奉新造東照大権現御宝殿一寺

御道守師山門標頭大僧正天海大和尚

時御奉行

成願寺人正藤原朝臣正成
竹橋山城守藤原朝臣政成

表書三

元和五年丁未菊月七日正廷宮

聖日開眼并 御大工藤原朝臣
千部讀經 沃田若狹吉次

ちしおせきしし少の地堂天長山神宮寺

尊務院の号い寛永四年慈眼大師名をうきし

部神号一幅如丸

所宮ニ在

陰陽不測

造化無為 南無東照入三所大権現

弘誓言垂佛

護國為心 三國傳灯山門標頭大僧正天海印

此の官服及御甲冑等神寶教多有。神衣

行事官調進 甲冑弓矢前等 御奉納

御太刀三柄 宗近 正恒 国行

佛の礼ハ元和六年四月十七日始ル

一 淨宮の遷移 御社傳云 元和八年四月十八日記之
種ハ水地也云々云々 所録也 珍祇山門
日修院のまじりて 高由地 田山藏院 移之
即宮近宮の所 有云々 命一上皇院と稱之
寛永二十二年十月十八日 遷祀也

一 淨宮三處 東照宮 山玉權現 日光權現
御云り 光權現 水 摩多羅神 也云々
御云り 日光山 三ヶ所 摩多羅神 也云々 高由地 山門
敬公の御心 日光權現 摩多羅神 也云々 客社

稱し 宮中別ニ一座と記りと云り

一 法華寺 於元亨元年

大永三年十一月十六日 遼勝 織田大和寺也

象比年 貢信源の祀文也

天文二十二年九月十日 御向大和寺 勝勇 禰波 免符
祀文

天正四年二月廿二日 信長

文祿四年五月廿六日 建性院常用

同年六月十九日 人訪役 免符 祀文

同年九月七日 福永村新田家治能文百石

海東龍白濱

慶長六年七月九日 忠吉御朱印

一 堤町興善寺領能文百石

寛永十二年九月九日 山内源三郎

後永九石代

橋村以右の 高田長兵衛 上向能文

後永九石代

河井久石代

田家門次郎 申元九石能文也

田畑一丁五石台采十七石八斗八合

寛永十二年十一月一日 橋戸山内河井長兵衛

海東龍白濱内福永村新田家治能文

一 福永文 祚幸之時 善由之妻 寛永七年

紀是侯と議しむい姑い新家の佐人高橋 満とあり

由來と云えしとくや口八年 大村家の人命と請て

十三人と云えしとくよ口おあ礼 孫龍ら此の法度

よりと云えしとくよ口おあ礼 孫龍ら此の法度

始也

一 郭内牛臥天主社 寛永十二年二月十六日 勅建ありし

分十六日とありしとあり也

敬公山再身所 梁輝

素盞鳥尊神社とら尊下牛乳天王の素盞鳥尊
 と云い備後国志記の素盞鳥尊と云はるる
 但世の東西六社の小祠の千一各は一位素盞
 鳥名神と國帳の傳り此六社の内此の好子名神ハ
 大弓村の比賣と云はる社は又日名名神七知名別
 大地庄大弓村の神と云はる社と云はる比賣の
 二座の青念の部社此は是也其の如くは
 皇初太く是侍り此の素盞鳥神に今郭内天
 玉乃社に云、敬儀古くは是の如くは、此の如く
 乃り此の如く

一前中納言從三位尾別太舟源綱誠卿父從二位前
 大納言光友卿母征夷大將軍從一位贈正一位大臣
 大臣大猷院殿源家光公女靈仙院元祿六稔癸酉
 夏四月龍衣父之封同十二稔己卯夏六月五日享年四
 十八歳薨于武州江戸市買之郡同月廿四日葬于
 尾別愛知郡古井邑徳真山是中寺
 元祿十二稔己卯六月日、尾陽詞臣并河子建、百拜誌

一尾陽侯二品前垂相源正公之墓

後二位行前權大納言源朝臣光友父故後二位權
大納言義直嫡母淺野氏高原院夫人実母吉田
氏觀喜院寛永二年乙酉七月廿九日生於尾州
名古屋城二十六歲襲封元禄六年癸酉致仕十
三年戊辰十月十六日薨于春日井郡山田庄大曾根
別墅壽七十六歲諡正公法葬瑞龍院天蓮社順
吳言葬愛知郡古井邑徳興山建中寺

右石誌源田正室作之實得誌解

一尾陽旧誌云寛文四辰七月十一日評定前番合始
付評定而少なき其日の多なき而少用故ら上
野名なき不具山大照の家と評定而後又池内
古くして洗補と也

一又山丸漏永之縁元年辰十月に於て云々
一又長久寺護摩堂寛文六年己酉末に於て
くまの山細事等の海軍海軍
一又栢香院寛文元年己酉末に於て
多愛おれしと建文元年己酉末に於て

吳吟抄や

一又六月十六日号よりあまの原の節の延喜二年に
 今乃西玉母八箇土山布衣の風車。佐用姫の若あり
 危や、車も持つて、暗箱し、家へ入る。其
 や、延喜二年の初、新皇と甲冑、降す。延喜
 二年

一又正徳三年九月の佛殿の堂より、東より、向後
 の雲を、留く、山居り、来る。其時、唱へしこと
 一又正徳三年に、りし、ある、山居り、唱へしこと

人かき

一又正徳元年の御所、少の屋より

一又正徳二年の延喜二年に、今の上り
 也、未だ

一又正徳二年の延喜二年に、今の上り
 り、延喜二年の延喜二年に、今の上り

一又延喜二年の延喜二年に、今の上り
 延喜二年の延喜二年に、今の上り
 延喜二年の延喜二年に、今の上り
 延喜二年の延喜二年に、今の上り

云傳痛より、**解云**、**表志**の存、定先を、**位**持、**之**如
 中を、**之**印、**之**云、**之**人、**之**體、**之**書、**之**い、**之**一、**之**正、**之**立、**之**退、

一 **又** **氏** **之** **所** **之** **傳** **之** **所** **之** **退** **之** **一**、**細** **傳** **之** **也**、**之** **傳** **之** **書**、
 傳 **之** **退**、**傳** **之** **退**、**傳** **之** **退**、**傳** **之** **退**、**傳** **之** **退**、

一 **又** **名** **古** **居** **山** **美** **清** **の** **所**、**之** **傳** **之** **退**、**之** **傳** **之** **退**、
 之 **傳** **之** **退**、**之** **傳** **之** **退**、**之** **傳** **之** **退**、**之** **傳** **之** **退**、
 之 **傳** **之** **退**、**之** **傳** **之** **退**、**之** **傳** **之** **退**、
 や **之** **退**、

一 **又** **傳** **之** **退** **の** **之** **傳** **之** **退** **之** **傳** **之** **退** **之** **傳** **之** **退**、

一 **又** **大** **光** **院** **之** **傳** **之** **退**、**之** **傳** **之** **退**、
 一 **又** **竟** **又** **之** **傳** **之** **退**、**之** **傳** **之** **退**、
 一 **又** **所** **傳** **之** **退**、**之** **傳** **之** **退**、
 一 **又** **所** **傳** **之** **退**、**之** **傳** **之** **退**、
 今 **の** **傳** **之** **退**、**之** **傳** **之** **退**、

一 **又** **所** **傳** **之** **退**、**之** **傳** **之** **退**、
 一 **又** **所** **傳** **之** **退**、**之** **傳** **之** **退**、

ことごとく、こゝろの騒ぎ、心と託立、禪堂でぬ
きも、久野氏ののゆゑ

敬公可被遣

一又 神祖 高野 の 故 公 榮 さ ら し し て 敬 公 一 可
う進と、法 大 名 く ら ね る 中 し も 智 の 厚 西
万相さ、^被 ら 指 る り 和 何 身 回 の あ か 大 ま り
角名を 実 平 の 人 政 ら 月 に 在 在 と 毛 鬚
包と、五 十 大 鑑 に う け 八 斗 あ ゆ れ
最、寛 政 の 二 路 清 と 社 也 と 名 の を 名 に
たの 身 も 法 片 法 の 徳 と ま を 所 の と 心

不残花

た多き、た か キ ヤ リ と も し ら さ ら る か 高 野 の ち 野
不、妙 也 や る 山 之 元 洞 こ も と な り 門 の 心 也
存 在 法 次 の 海 者 二 家 子 ら し 行 く 善 也 と 言
高、人 教 と 不 知 ま か 存 在 法 と 何 も な く 二 言
か、一 言 と も 物 法 正 の 法 善 也 と い ひ ひ 手 二 價
を、り 善 也 と ま を た 探 て 人 と 奪 た と も
酒、も 善 也 と あ へ る 存 在 高 人 も 是 物 の 元 意 男
少、名 思 細 に 在 亦 也 岩 末 の 小 歌 と 思 ひ 一 時
存、名 在 法 行 法 大 踊 と ま を し た り ゆ か 〇

後名宗

奪取の心

石川あゝ美きよ中世たゝ金糸平の粧を彌々
連くらゆるりと化想多有りよこよは處處持
恨方も少ふんと
及ひらぶれも方相あり

花を好むも一枚おしつとたると信ひるると
万松寺の庭に大木の梅をしと咲くくけりは
其所も万松寺今の梅阿は梅風はと云涼場
のもをへん梅天邪と云ハ万松寺跡をやくとん
そは女ま色の袴きん方にも春に團く一い存おろの梅を
よつとみらひつと能後の庭を眺むるもけけのきり

思しはひにを以てををしてよふとあるか如能多連なり
おろ所をつくと梅安と稱し兼木とある節述
の親お梅を身ゆゆりり三河の早梅二人き
侯はゆりりき居と團くら唐はらの遠方を見わ
るとよきやふ人袴はうは能の面と穴のり
りやも袴女はよとまをあを去り跡をゆき兼木
戸も見お入い家もあうゆり程を師と人
如文人切節し兼木一入はひはいと上回して類類
せんを切赤屋の娘もと能のよの是れ知り
地

石の如く美しき小蛇を。金糸年の程と稱す

連くらわらむと化想多有りまこと以て處女扱

恨も少くはと云 及びわらねも万松あり

花を折も一枝ありと云はるる隠ひありと云

万松寺の庭に大木の松を折ると云はるるゆり

其時と万松寺今の松樹を松風と云はるる

のまゝの松天都と云はる万松寺跡をやうと云

まはれぬ松の幹キナも青く圍イロ一松ありの松を

よと云はるる松の松風の松を視るるとは松のま

まはれぬ松の松風の松を視るるとは松のま

鳥木戸

被出り

杵歌

類

敬知

日部百部村休云云為云云
 法系日部村也
 禪宗日部原次少部切光遠云云
 割栲所
 一又南無永日部
 下総弓
 建之
 東照宮ハ元和五年九月十七日遷宮

南无坊天海 謚慈眼大師

奉行 成瀬隼人正藤原正成
 竹腰山城守藤原政次

大工 澤田若狹守藤原正次

神衣 行事官 調進 御太刀 三柄 宗近

甲冑弓箭等 御奉納 正恒 國行

寛永四年号佛院 称天長山神宮寺 尊珠院

天海執之云々

用基 慈眼大師 二元 珍祐權僧正 上京院自山日藏院 某住

三代 大僧正 珍海 淨心院 四代 珍海僧正 觀心院
五代 靈巖僧正 城南院 六代 智日大僧都 東恩院

神主

正五位下 宮内大輔 源幸勝
正四位下 民部大輔 源恒幸
從五位上 刑部大輔 源幸和

一又大政官外記 少條下官 宣旨 召物 書 或曰
左辨官下 尾張國

應早速 進上 猿頭 硯 貳拾口 每貳拾筆 云々

是也 治五年九月の條 七畧書も 我尾列むし
硯と心せし事 方明や 今の中さいなりト

一又尾張國司解 申請 天裁事云々

元永二年十二月日 正六位上行 大原真人

以和名を變ふ是二十六卷の法國公文の中にも

右ハ雜采免除國解也 文ヲ 大原真人 今辨田の

祿人ニ多ク以付ハ由衛ニシテ 此ニありしと見え

一又之島院ハ元甲別新府ニシテ 持名山 教安寺

と号ス 春宿 和高 府下 垣見 山の 下ニ 近シ

千原の善提在場として、寺島院と号する定
親告の計りいやくとく

一、おわりし日のる姓氏として幸あつらひふ化別
る事ととも是端午禁田の社走馬の事記してあ
ぬ神社仏閣へて法民馬と云ふ事あり。必りとりて文祿
の辰是目ちり馬民の喧嘩とし相争りて又も
や、久しき風俗とらるる一節

▲秋の福号に志水早帆史右衛門二階の住人あり
不審ありて俄に上と切世人首切門と云今頃の事や
▲寺社の存命の由未ハ地方古義ニ元和五年一封
内は社の事ハ初も所書下とあり

一、兼徳二三年九月の是をひくゆらまはち社に徳
あり下下と云ふ千時を河の海に下りて南郊
ありあやみ名古名のち社に所まの地ありて社に徳
まのありあり

一、寛文おじし年三月極弁中島山内流をち社に
らねしつありて十人絶らねるに社に徳ありて
一、口八甲年ありて家政と云ふ事ありて向後二

三月申一度がゆき、口辛五月觸る

一 此處より三年宗門改隔年、故天和元五月より
又毎年一、如きり

差止り

一 延享四年八月、社中人絶たし、是より社中絶たし、
至一人、而後右名心人、杖物、至一人、名心人、杖物、左名心
屋別、社中より上たぐ、より社中人、改隔年、其時
二、丸内、柳名、左名、右名、社中より、改隔年、定り

一 延享元子年、心来、心来、中宗、改隔年、馬廻り、心来、配
社中より、一、札と、心来、其時

▲ 延享元子年、心来、心来、中宗、改隔年、馬廻り、心来、配
社中より、一、札と、心来、其時

一 名古屋、清ら、改隔年、心来、心来、中宗、改隔年、馬廻り、心来、配
社中より、一、札と、心来、其時

一 名古屋、清ら、改隔年、心来、心来、中宗、改隔年、馬廻り、心来、配
社中より、一、札と、心来、其時

一 名古屋、清ら、改隔年、心来、心来、中宗、改隔年、馬廻り、心来、配
社中より、一、札と、心来、其時

元禄二己年 公義くちといわす五十八人
一 西尾 公純 弟 公名 公汗 七年 公名 公義 公名 公名
寛永十有年 公名 公名 公名
一 古井村 公名 公名 公名 公名 公名 公名 公名 公名
古馬 公名 公名 公名 公名 公名 公名 公名 公名
公名 公名 公名 公名 公名 公名 公名 公名

▲ 聖堂 秋菜 祭文

明公の代 秘述し

其文 左り如し

寛政九年二月六日 後二位 行権大納言 福朝臣

宗睦 敢昭告于

先聖文宣王 惟

王固天攸縱誕降生知經緯礼樂闡揚文教餘
烈遺風千載是仰俾茲末学依仁遊藝謹以
幣物资糈旨酒嘉肴 祇奉旧章式陳明薦
以 先師 顏子 等 配尚 饗良

又

寛政

昭告于

先師顏子等爰以仲春率遵故實敬修新
祭

先聖文宣王惟

子等或服舊

聖教德冠四科或光闡儒風貽範千載謹以
旨酒嘉肴式陳明獻後祀配神尚鄉食

▲名古屋分江戶進行程八十七里三十四町四十五間人員

仕負駄賃人總計如左

一 滝七里二百五十一文 名古屋分

下馬一疋

一 滝四里二百一十二文

下馬一疋

一 滝三里二百一十二文

人是一人

一 滝七里二百五十九文

名古屋分

下馬一疋

一 滝四里二百一十二文

下馬一疋

一 滝五里二百一十二文

人是一人

一 谷古屋分宮と行程一里半

上り下りハ中一疋 下馬五中一疋 人是一人

下り 下馬六中一疋 下馬六中一疋 人是一人

▲江戶分名古屋と本郷路行程百八里五町人員仕負

仕負人總計如左

一 酒六貫九文 酒六貫九文

本馬一匹

一 酒五貫九文

燈籠一匹

一 酒三貫九文

人足一人

一 酒六貫九文 酒六貫九文

燈籠一匹

一 酒五貫九文

燈籠一匹

一 酒三貫九文

人足一人

▲ 名古屋 小京近 浮勝路 行程四十里 三丁人足賃

今是賃 燈籠一匹 行物在

一 酒二貫九文

本馬一匹

一 酒五貫九文

燈籠一匹

一 酒一貫九文

人足一人

▲ 名古屋 小京近 浮勝路 行程四十里 三丁人足賃

今是賃 燈籠一匹 行物在

一 酒二貫九文

本馬一匹

一 酒一貫九文

燈籠一匹

一 酒三貫九文

人足一人

一 名古屋 小京近 行程三里 八丁

上 燈籠一匹 行物在 今是賃八文
下 燈籠一匹 行物在 今是賃八文

一 名 古 名 の 注 次 と 行 程 二 里

上 布 島 九 十 文 修 成 寺 二 里 人 是 四 十 文

一 名 古 名 の 山 名 塚 と 行 程 二 里

上 布 島 九 十 文 修 成 寺 二 里 人 是 四 十 文

▲ 懷 中 硯 二 力 働 氏 郭 内 天 平 社 元 三 位 連 繩 以 社 二

毎 山 月 二 日 射 的 の 祈 年 と 元 日 の 祈 儀 二 也

禪 を う ま る を 飛 化 と 云 ふ 又 志 め ふ 言 う ぐ と 云 ふ

と 云 ふ と 云 ふ 社 名 も 無 く 名 古 名 の 祈 儀 二 也

百 八 社 名 の 式 法 二 る 言 う 者 の 祈 儀 二 也

百 八 社 名 二 る 言 う 者 の 祈 儀 二 也

一 又曰社名も什室の内ニ唐土騰安園の中央ニ

お侍よけ中央ハ早湯洲田家ハ巨山ハ和泉物為

高所ヤリト云彦上ニ殿宿山水の象と殿喜例ニ

山池下ハ貴湯定塔為大元戒季公伯顯作ト

記ヤリ其地ニ唐土の山池下ハ大ぬのヤリ一代

交家の母の事号ト云和物後相系院永四年

ニ高ハ山名氏の流世ト云和物をち得ハ徳リ

何事とも是れを不知亦山に不寄附し事い
具舟の現何法下俗姓嘉仰り汝父をねは縁
のりりとり下且皇ハ黒塗ニ一七金匠を細字有
其古りぬ〜定りぬ上臺の印性ハ下巻有
新〜〜の疑り〜人の修造也〜志あり

一又曰社孫殿之鰐口表詔ハ奉寄進鰐口尾別變
智郡名讚屋天皇御宝前元和七年五月吉日

天王坊竟養卜鑄又其裡詔ハ尾別春野山田
庄小幡長谷村勝軍地藏堂鰐口奉為檀那四人

屬諸願成就皆令満足所大工全屋三郎二郎家
則元龜元年八月廿四日本願三藏坊

一又曰社布比堂鰐口甲州山梨郡八幡山杉本寺
觀音鰐口于明大永八年戊子正月日鑄之願主
重定

一御宮神ノ為寺書院決灯籠具ハ甚古制衣ニテ文
字半滅〜〜定りぬん永録乃文面ニあり

一山あり礼雷神車馬假面ける面ハ世俗天降〜
其面形乃表ニ朱漆〜〜文字大古廿四年と

名あり

仍北の事也

乃つて是れを不知、亦山に不為所とし、其の
具付の現存法下、俗姓、嘉徳、仰り、故父を以て縁
の、とらとく、下且皇ハ黒塗ニシテ、金泥を以て細字あり、
甚古り、ぬく定り、ぬん上臺の印、性ハ下、為り、
新ハ、ぬぬ疑ハ、ぬぬ、海人の所造也、し、其、ぬ、
一又曰社、孤殿、鰐口、表、路ハ、奉言、進、鰐口、尾、別、愛

智郡、名護屋、天皇、御宝前、元和七年、丙午、五月、吉日、
天王坊、竟、養、良、ト、鑄、ス、又、其、程、路ハ、尾、別、春、野、山、田、
庄、小、幡、長、谷、村、勝、軍、地、藏、堂、鰐口、奉、為、檀、那、人

屬、諱、願、成、就、皆、旨、令、滿、是、所、大、工、人、全、屋、三、郎、二、郎、家、
則、元、龜、元、年、八、月、廿、四、日、本、願、三、藏、坊、

一又曰社、布比、堂、鰐口、甲、別、山、梨、郡、八、幡、山、杉、本、寺、
觀、音、鰐口、于、此、大、永、八、年、戊、子、正、月、日、鑄、之、願、主、
重、定、

一御宮、神、之、事、書、院、決、灯、之、意、是、ハ、甚、古、制、衣、ニ、テ、文、
字、半、滅、シ、テ、定、リ、ク、ル、永、祿、乃、文、面、字、
一、以、其、形、禮、雷、神、車、馬、假、面、
其、面、形、乃、表、朱、漆、、之、者、、又、字、、大、吉、、廿、四、年、、と、

乃也

皇島あり。大吉天といふの年号、和漢を二國つとて、期田
 神宮あり。還城樂の面も、其表也。治承二年 戊戌
 寺陽天候、海へ弘安七年 甲申 朱明天皇重修、復
 矣と徳やふ、是とてん、いける面、徳やふ、大吉天と其
 歌、いも、疑ら、い、知者の名、さ、あ、ん、歌、志、し、志、年
 の文字考、し、し、西の、礼、全、志、に、い、る、面、年、号、為、後、考、也、
 河、こ、る、面、何、ま、の、事、也、信、院、あり、と、一、定、の、り、は、
西、の、礼、入、玉、を、考、也、 也、也、 也、也、 也、也、
 大和、う、ち、の、り、を、柿、原、甚、助、仙、也、 と、い、は、る、也、 と、い、は、る、也、

志、も、其、の、予、り、也、池、等、に、誌、も、

- 一 伏見州、一、月、高陶器家、牡丹花も、其、大、六、七、年、中、
- あ、ん、う、万、治、年、中、の、火、災、と、逃、を、事、り、て、今、猶、舊、儀、を、
- 同、花、の、比、に、發、客、と、も、い、は、る、也、 凡、百、余、年、の、星、霜、と、
- な、ち、ら、し、も、花、に、い、は、る、也、 と、い、は、る、也、
- 一 清水寺、新、口、は、い、堂、前、の、南、の、り、も、 路、に、三、河、國、
- 比、志、加、賀、郷、若、倉、社、 新、口、一、面、 宝、徳、二、年、壬、申、
- 六、月、日、願、主、貞、國、 と、記、せ、り、
- 一 白山社、金、灯、籠、 銘、 白、山、大、権、現、 奉、掛、御、神、前、

天正三亥年八月十八日當村氏子中

一 瀬田 尾州 山下 山崎 川 の内 並 例 多 人 家 の 裏
よ 古 杉 を 古 一 妙 善 院 お 圍 師 公 屋 建 家
井 戸 田 一 在 近 の 所 市 を 奉 ま は じ 比 の 所 奉 り 完
地 で 師 長 云 ゆ 流 り 成 西 海 を 経 る 山 形 見 の 山 神
を 祀 り 上 は 此 の 御 一 く な り と 云 ふ 山 を 祀 り
洞 に ぬ き し 一 夜 を け 松 う 枝 を は か り り と 云 ふ
又 命 を て い 一 種 と ハ 祀 り け 松 と 云 ふ 今 其 古 松 が
枯 て 恙 あ と 祀 り 古 人 の 事 と 云 ふ 一 山 神 を こ

家付雲のせほとくしんかああせおとく、あまの
あまの初産と云

一 東 山 前 西 山 寺 中 山 崎 院 の 奉 師 を こ と 云 ふ
新 田 の 松 二 別 産 の 山 崎 院 の 新 田 を 山 崎 院
玉 産 二 年 と 世 り り と 云 ふ

一 法 華 寺 阿 法 海 寺 七 面 を 宣 ふ と 云 ふ 新 田 に 別
山 崎 院 前 山 崎 院 十五 卷 經 口 無 法 房 公 用
山 崎 院 前 山 崎 院 二十 年 辛 卯 三 日 吉 日 法 之 寺
山 崎 院 前 山 崎 院 二十 年 辛 卯 三 日 吉 日 法 之 寺
山 崎 院 前 山 崎 院 二十 年 辛 卯 三 日 吉 日 法 之 寺

經曰一に為可致成就也。融と云ふは、陶光
嘉三大明神文昭七年乙未十一月吉日と云

一新山集好系界古系源寺。うとる。經曰の路。
為新移奉請。是尾山跡寺。落二に就る。有系
河原。意永十積六。り火。右。敬白大工助宗
と云

一墓河原系源寺古碑石。五。儀。雙子地蔵と傳。近代
界曰。大根心。やと云。碑面。永正十一年二月申六の
河原系源寺。石。心。縁の。逆。歴と云。中央佛像。二。龜

一河原系源寺。古。墓。石。ハ。寺。中。墓。前。の。入口。に。五
系。源。寺。同。基。大。檀。那。林。依。源。寺。通。稱。く。又。乃。墓
也。宏。綱。梵。記。居。土。と。号。為。与。元。中。申。五。所。在。
近。所。有。所。以。代。と。近。也。以。墓。石。七。日。所。に。移。來。也。乃
款。石。ハ。古。り。り。碑。面。に。宏。綱。墓。高。与。寺。創
大。檀。主。林。依。源。寺。慈。父。天。文。廿。四。乙。卯。歲。十。月
十一日と云

一移河原系源寺。石。地。為。之。世。居。居。後。り
地。是。と。云。亦。傳。上。古。有。傳。の。と。云。ありと云

此の地、**熊川**の河東、古くは河内と云ふ所の
 地多のやとも、**皇**在石ハ後入リ成補やとも
 一**中**下皇鳳ち宝蓮寺塔、塔西ニ僅奉造立、宝
 蓮印塔、應永十甲申年二月十五日、教王得阿彌
 陀佛敬白、是ハ系師さるる前立、碑陰ニ成後の
 才と葺やリ、敬奉修補、寶塔一基、享保十
 三年臘月初八日、教王系氏、奉深方淑秋密

圓

一紫川旧五輪^倫、三倉の系為光院の塔園、今も世に

紫式の古墳と云、碑面林字のこつんて、年号ロ是
 一性高院の墓所ニ、大樹の松をそ、其本ニ墓石と云、
 云は地高院、うぬあ、街た、一を即け墓、秘人
 のゆ終、え空、一と葬、リ一標、やとも、
 痛、鑿、石の年号、匠字定、り、ん、疑、ら、く、
 是、も、る、る、一、碑、面、こ、も、十、二、年、四、月、九、六、り、也、十
 七年七月、廿、九、り、と、一、松、原、二、願、鑿、を、也、

此古墳、主僧人ノ雷ニ因テ
 ニツリツカハ、今チ知れ
 向ナル高院ニアリト云

一 福元寺古鏡は漢文の如部々熱田銀と云
う鏡や〜と云 年ね國に七公法入るの如 徳成云
為多一暑跡と一と橋如左 熱田宮 神宮寺
延徳元年正月十日と云 熱田一山河津 檀形
浅井任可左子屋之 大工存左前口 刑
口 考左前

一日も雲版 前記也一境と曰はし 位極との考時
やと云 詔文云ふ所の圓通壽福と一何氏りか院と
いしと考し年とゆふと 詔如左 隆圓山四遍福ち

延文元年丙申 應神日住持比丘天山

一日寺什物喚鐘 漢川和尚用より なるの如 詔
文云 延慶二年辛丑二月日 既る為住

一 萬松禪寺古鐘銘文云 美濃國各務郡弓削田也壯

佐良木郡長塚宮 推鐘 檀那也 傳田源左衛門藤原

祐貞 慈能入道 祐直 藤原兼光 大工兵衛大天藤

原友次 結衆五十余人 文明七年乙未十二月

八月

尾別春日井郡高田寺 鐘 檀那也 佐之 下野守藤

原貞則久地野伊泉入道赤池新右衛門吉又
大永五年乙酉十二月廿日筆者明真

尾別那古屋庄龜岳山万松寺第百也住持比立
大宗播老拙寄所享天正上歳舎百成仲春殊
如意日

一竹邊釋堂の栴札假名文二頁類稀也依之
写し之書之栴札

を包しよよのこちやくー新二のめ
そくふよ十之修んふふやう志のゆなと

けいひつさき堂をたふあしとのめ
寛永十八年辛巳下り吉。

一曰寺大檀那殿内修り自筆の栴札やとて文版
半抹滅しとされつ年月の年号は天文十年や
又書云。天文十年二月に栴札海内修り自利
形をて別ある用基海内修り堅和殿を

一曰寺福島の別栴札

栴札制

萬杉寺

一高杉寺山内なるかてちの寺なり

一 衣をぬく事

一 足指をぬく事

一 足指をぬく事

一 竹本知事より

右條より

右條より

是年四月九日

右條より

右條より

右條より

右條より

一 大波真禪寺

一 平田庄天神御宝前

一 七寺什物

一 高寺十右衛門

一 高寺十右衛門

一 往昔天皇

一 氏一氏

右條より

一 衣をわく事し

一 足物をえんくちり着く事し

一 足物をひく事あり

一 竹床をゆきし事あり

右條より若くお背の汗をぬぐふ事

若くは仍執達事

その事四年九月九日 羽柴左衛門守 通

ち清お供ふ事あり

ち此にぬれぬ事あり

大し割れぬ事あり

注し祀り事あり

一 大波真細寺 法守 天部社 麩口 路 奉懸 厚子 見郡

一 平田庄 天神 御宝前 永亨 十一年十月十三日 敬白

一 七寺 什物 獅子 氏 是の事あり

一 法守 十寺 控院 の例あり

一 書り 此の事あり

一 往昔 天皇 所願 奉念 祈願 あり

一 氏一 氏と 洲と あり

右條々若於相背輩者川為事者也

右制礼正別ノ自筆也ト云文後ハ前ニシトス

制礼ヲ用ヒシト思ヘタリ

威

奉

著書の尾張十丈寺記畧。見えたり。又の文の多し
乃母のひりてふの柳多ふんは一尺ふん模刻
セーと云

一日付多し一切経櫃と蓋に記諸状と書候
之を以て再真の大馬路大中臣等と云
細くして法系年中の旧知に白石先生の斗と云
は守らんえりて死後写す如左

觀諸 鎮守十五所権現大明神御宝前

謹請一切經安覺同五百箇條起請状

- 一後、將來寺家不棄來者獨之親不可用唐櫃事
- 一後、將來雜旅縁明人不可奉借出他園他境事
- 一後、將來於園中雖為書寫奉讀一度一合外不可奉借出
- 一後、將來寺中傍依他人語之禍不可借出事
- 一後、將來寺中居僧冬元比一年一度可奉于施事
- 一後、將來為難雜似邪見夫以世間作法或為火難或為
舉敵或為盜失其恐在也若園中部分為書寫
奉讀有奉請之聖人者奉請一合令返送其一

合之後又可奉請一人合連如此用之一度從多
奉請之事永以停心何況於他國奉請哉若皆
此流之人者可奉任大行事熟田大明神 八劍大明
神也神威最重者人誰違之仰願經中所載三
世十方諸如護法聖衆伏乞諸天善神住却無跡
諸真衆龍神同心念知見證給謹請如件

治承^二六年^一八月日 陌殿主惣大判官代 散位大^中臣^守長^中 氏^氏

勸進 僧 榮 熟

大法師 榮 熟

一 ~~日~~ ^所 日七面傍所天王坊隱退之地庭前二十古碑と
誰の墓誌ありま^と名知羊決壊し^と年号の以字
定よりん^と永^と字と^と号^とま^との^と其^との^と

正八年八月廿四日と

一 栄國寺所藏罪鏡之也^と知ル切^と丹^と乃^と忠^と賊^と之^と罪
も^と而^との^と流^と也^と乃^と流^との^と流^と文^とと^と如^と互^と徳^とセリ

心隨 萬境 轉

實 能 呈

一 日ち付家古過玄傑^と是^と世^と無^と名^と道^と生^と坊^との^と名

おやとのふれをあたふに酒を中流ハ群るん也
傳信云今あまふに安んずる沙陀の孫也と云ふに
留しと云沙陀の孫ハ乃蓬生坊の坊佛なりと云
初可大橋能後ぞく後りし一軒と云活状ハ今
あり知れぬ也良村ハ乃と云ふ泉源と云

一清淨寺牧氏古五倫 是の地為堂の存と云
高木清源の坊と朝波家の一族物と云なる也
法史娘の古墳と婦ハ彌陀院に在る也此の地を
曰牧氏古城乃端や也法史と小橋原と稱し困窮の
貴族なり故其比するに云ふなり

蓬左舊記ニ元和四年戊午二月

東照言御三回忌所執行け何の如き礼の或部と云
後年七月所分警國三四人出

一西の如礼死過年一万治元戊戌の年ハ之石ヲ物り
聖に云ふの年ハ四石のこりまふ

一東照の神祖ハ大乃持為井身也時人會同新中
寺傳心大と云上言 是同作は其の町

一移河上使少能を西の寛永年中由是を思ふ町

乃所為禮父花井約意人平七々々二十月在後
摸考能知二うあふ二十月約意二いふ二也院を修
不持也是ふ自ら修事らぬ一席ねらあふ凡そ完
比二也院と云ふも少地を遊少申とてうはと
年月傳十口と約りてり是事元は子年と約を
所由物と候と云は津堅和し今も在る交の也今
か一少申と云ふと云ふ東西十口南七口り処を
是乃とて上撫地と云ふを新田の也上あ新田の也
富之代水代也と云ふ

一富田河四軒りある便者名を記し一も兼應二年
年暮府令と候借一も上東の便と云ふは寛文
六年三月廿四軒の志元宅地二也院一既りと建物り



一総町代花井身志の代長公茂別時身志の代
庄別時身志井瀬本村の代り法名有るといふ
身男河長法名約二といふは江岸町惣代と云
宗地百石と云ふ所二也男と云ふは法名相
と云ふは法名惣代也といふは惣代と云ふは宗地

横手能成三夜田日記

乃時乃禮父花井納意人平七々々二十月在後
横手能成三夜田日記
不持之是の自心能事は公希れらあるに在毫
比に書院と書名も少地を遊少田とて之を
年月傳十口と納りて之を事元は子年と納り
所の物と納りて之を津堅和し今も在家の也今
か一少田とて之を東西十口南七口北七口
乃乃とて之を換地とて之を新田の也よも新田の也
富之屋永代納りて之を

一富田河田軒乃名を傳ち家を築きしは永應二年
年暮存命と納借ししは東の傳とて此は寛文
六年三月廿四軒の志元宅地に書院一所を建納り



一総町代花井身志の伝忠公法別傳身志の傳
伝別傳の井原本村の傳し法名傳友とて之
身男河長法名納りて之を法泉町惣伝とて之
宗地百石と納りて之を二傳身とて之を法名相
とて之を法泉町惣伝とて之を法泉町惣伝とて之

石名と納りし大城落嶽山麓糸比らるる河二
之旁七たの法名新意具男七たの法名夢理経
其河代とる急代と月傳と物とり

一西濃尾村并新入先社村并法海寺南方河次岡
洲次郎分爲長尾洲次郎子一移さり河次とあそ
性言公一西濃とさしと河次とさる又

敬公分七西河後孫氏也

一万治三年子下り高日名古尾冬燒流至尾家丁百廿新
河尾二千二百字七新加二流名三千十町河尾軒殿八千

古河元高言三尺四寸七分三厘の除地を八千者以先
乃乃割二一ももの流子千貫目瓦樽木五万楨松
木名名榎木流子金一も一万四千八百七十九石
是より下之流名也但系女榎木七止下之流名
乃口一乃二乃三乃四乃五乃六乃七乃八乃九

一西下尾家の河次河尾寺上子尾家方衆人心入日地を
親せといをし日二大町河尾今は此西屋の内
女交そ大綱を川其綱の中たるあをそ并込
口論とる既二堂候とらんとも因を綱を引り

石名を納りし大坂為山屋、弟比らるる、乃二
之男七人の法名新、意具男七人の法名多、理、終
其所代とる、と急代と月傳と物とあり。

一 小鑄屋

一 小濱屋、村井新八、先程村井、法海、南、方、酒、次、岡

洲、酒、次、分、名、長、屋、洲、酒、次、分、名、長、屋、酒、次、分、名、長、屋

性、高、公、小、濱、屋、と、し、は、酒、次、分、名、長、屋、又

敬、公、分、小、濱、屋、酒、次、分、名、長、屋、也

一 万治三年子、下、り、志、日、必、古、屋、冬、燒、法、士、屋、家、丁、百、廿、新
町、屋、二、千、二、百、四、十、七、新、八、二、屋、名、三、十、新、四、九、軒、屋、八、十

六、百、九、十、三、尺、四、寸、七、分、三、厘、の、除、却、も、八、千、百、九、十、九

尺、乃、割、二、一、と、被下物、浪、子、千、貫、目、瓦、樽、木、五、万、換、松

木、五、万、換、木、浪、子、金、一、万、四、千、八、百、七、十、二、五、兩、中

先、又、下、之、名、也、但、京、西、換、字、七、五、十、五、兩、也

乃、口、一、百、三、十、兩、中、下、之、名、也

一 西、下、屋、名、い、河、新、河、池、也、上、子、名、也、方、屋、人、心、入、日、池、也

程、也、と、い、ふ、也、し、日、二、大、分、り、池、也、今、は、池、の、屋、の、内、

必、交、る、大、綱、と、其、綱、の、中、に、た、り、あ、る、と、并、也

口、論、と、り、既、に、堂、屋、と、り、ん、と、も、因、り、綱、と、り、ん

西傳止むに後、商人の印をせし今、諸河
ののまあるの商人の出入をせし、〇のちな
割建の迄七十年、瑞雲公のゆゆ也を第〇

河の河、瑞雲公のゆゆ也を第〇
のちな、瑞雲公のゆゆ也を第〇
のちな、瑞雲公のゆゆ也を第〇

一、乾の河、瑞雲公のゆゆ也を第〇
のちな、瑞雲公のゆゆ也を第〇
のちな、瑞雲公のゆゆ也を第〇

一、古の河、瑞雲公のゆゆ也を第〇
のちな、瑞雲公のゆゆ也を第〇
のちな、瑞雲公のゆゆ也を第〇

一、井の河、瑞雲公のゆゆ也を第〇
のちな、瑞雲公のゆゆ也を第〇
のちな、瑞雲公のゆゆ也を第〇

此井の河、瑞雲公のゆゆ也を第〇
のちな、瑞雲公のゆゆ也を第〇
のちな、瑞雲公のゆゆ也を第〇

▲夕日物語

志物野公府の他心新人の今夕の事
新三の礼考より種目也号一櫻の
二義徳

三甲午壬午千本村の江並切志物野の門將より

今夕櫻河の下常國と門將の志物野に往還の事

うらひ名を危中より古流屋と名ありて一木にありて

その櫻河と名ありて何所ゆく者も金田借渡

ふ毎年今に二丁敷と櫻河中より名を義徳

芝居場も改細とてふ名あり丹波灘の場跡と

名ありて改細とて

一 万治二年六月十日 石見川河角
公孫王宮 藤原氏 夫曾山火 皇河 以
梵心 乾清 之 致 所 下 之 危 可 也 角 備 法
中 七 日 皇 州 通 口 河 原 大 光 与 海 之 火 燒 也
所 曰 楊 所 亦 下 之 遺 也

一 寛文四年春 楊 所 云 西 尾 平 楊 所 曰 九 三 郎
楊 所 之 戶 河 之 原 亦 皇 朝 之 字 也 主 所 之 下 皇 朝

一 寛文五年 秋 楊 所 之 芝 蔴 節 之 皇 之 山 嶺
皇 朝 之 皇 之 皇 朝 之 皇 朝 之 皇 朝 之 皇 朝 之 皇 朝

楊 所 之 一 次 村 之 皇 朝 之 皇 朝 之 皇 朝 之 皇 朝 之 皇 朝
皇 朝 之 皇 朝 之 皇 朝 之 皇 朝 之 皇 朝 之 皇 朝 之 皇 朝

一 元禄十三年 二月 十日 中 下 江 河 院 門 前 之 火
新 屋 家 小 河 之 燒 之 上 河 原 之 燒 之 皇 朝 之 皇 朝

中下

中 下 江 河 院 南 之 皇 朝 之 皇 朝 之 皇 朝 之 皇 朝 之 皇 朝
村 河 上 楊 所 之 皇 朝 之 皇 朝 之 皇 朝 之 皇 朝 之 皇 朝
角 之 皇 朝 之 皇 朝 之 皇 朝 之 皇 朝 之 皇 朝 之 皇 朝
之 皇 朝 之 皇 朝 之 皇 朝 之 皇 朝 之 皇 朝 之 皇 朝

山國河上河原也并舟橋舟橋之町也此山國也書中下河原橋
後口法王后殿南高河原也川原并小橋下庄生
石原河原并小橋西河原細原橋西橋下庄生
小門河原也并河原の庄也也書中河原也此山國也
川原并小橋下庄生火多河原法王也

一室原也並平處別也地原也此山國也書中河原也此山國也
此山國也書中河原也此山國也書中河原也此山國也書中河原也
此山國也書中河原也此山國也書中河原也此山國也書中河原也
此山國也書中河原也此山國也書中河原也此山國也書中河原也

此山國也書中河原也此山國也書中河原也此山國也書中河原也
此山國也書中河原也此山國也書中河原也此山國也書中河原也
此山國也書中河原也此山國也書中河原也此山國也書中河原也
此山國也書中河原也此山國也書中河原也此山國也書中河原也
此山國也書中河原也此山國也書中河原也此山國也書中河原也
此山國也書中河原也此山國也書中河原也此山國也書中河原也

町

一

山國河上河原也

并舟橋之町也

此山國也書中河原也

院中ノ苑江弓山細尾紀二物鏡南中丁又細尾

之下大入江所相所川尾西ハ細尾相所ト云雁

村中何より先一宮君所石持所所名ハ依尾所

角ヨリ相所相所水身所ハ東所書之ノ角

まゝ西極所ハ東所江尾所ト云ハ依尾所ハ相所ト

物所ハ東所ト書之ノ所ハ西側ト云ハ東極所門

之ハ相所相所相所相所相所相所相所相所相所

ハ新之極所之新後新所江尾所極所全所相所

仙門中下より江尾所ハ相所ハ東所ハ相所ハ東所ハ相所ハ東所中相所

ハ尾書出出出出出出出出出出出出出出出出出出

極所ハ江尾所極所極所極所極所極所極所極所極所

一享保十七年二月五日大家通行也之何記ハ相所

極所ハ江尾所極所極所極所極所極所極所極所極所

相所極所極所極所極所極所極所極所極所極所極所

極所極所極所極所極所極所極所極所極所極所極所

極所極所極所極所極所極所極所極所極所極所極所

極所極所極所極所極所極所極所極所極所極所極所

一享保十七年二月五日大家通行也之何記ハ相所

院中南の如く山崎紙屋程上御焼

ふ下た大江山御焼川原西の紙屋程よりとある

村中御焼よりとある所石坊御焼の如く依り所

角を御焼村御焼水母御焼の如く角

まきし西御焼の如く御焼所と依り所の御焼と

御焼の如く所と依り所の西御焼御焼御焼

之を御焼御焼御焼御焼御焼御焼御焼御焼

御焼御焼御焼御焼御焼御焼御焼御焼御焼

南の如く

川原西の紙屋程よりとある

石坊御焼の如く依り所

角を御焼村御焼

まきし西御焼の如く御焼所

御焼の如く所と依り所の西御焼

御焼御焼御焼御焼御焼御焼御焼御焼御焼

以定此以初四風的每二月日自魯之三子仲雄之
後河村繼後河村之孫子孫任之也

一建中寺中

權大納言從二位源明公墓誌

維 權大納言從二位尾張侯德川源明公之墓

也 公諱宗顯字子和幼名熊五拜父權中納

言從三位戴公母一色氏 戴公為支封高須侯

以享保十八年癸丑九月亦日生 公於江戶四

谷高須侯邸及 戴公繼宗國 公亦從為也

子寬保二年壬戌十二月四日加元服祔右兵衛督延

享元年甲子十二月朔叙從三位任左近衛權中將

室曆二年癸酉十二月朔任兵部少輔中將如故十一年

辛巳六月二十二日 戴公逝八月五日襲封十二

月朔任權中納言天明元年辛巳三月十五日任權

大納言叙從二位廣其久持國政也 公天資

溫嚴於文講武仁愛彌中政教彪外初室曆中

公娶 准之后近衛藤原家久公女先逝追號

轉陵院生二子皆先逝 諡 孝世子 昭世子以

公無嗣養其姓高須侯為嗣逝謚白世子世子
有子又逝謚世孫重養其後四位下少將
勝長朝臣子為嗣天追号 教念院於是養
征夷大將軍源公房之子為嗣亦天追号
瑞藏院終養左近衛權中將從三位德川源
治國卿長子為嗣 今侯從三位左近衛權中
將齊朝卿也寬政十一年己未十二月亦日
公病逝於市谷邸春秋六十有七謚曰明教翌年
庚申正月十六日發引靈輿經東海道十日而

飯尾張到建中寺二十七日以礼安措其死域乃
叙事刻石蓋慮異時陵谷亦變遷云

尾張儒臣須賀安貞頓首謹識

▲張列志無二城川水德河戶公南無因之至了西之入
其月二七橋之公系橋中橋河之橋初在橋
川之橋古後橋之新橋也○此話若曰為公上云
年辛亥六月一日初之際七公在古尾善後乃其免
勇足原勢其乃其方名之知也大名知乃其
人又其人乃其心名其尾橋下其以之振白也

子三堀門と構 神保 在りて是より今夫

切と云ふ

▲町屋入合 免押 宅地 如左

一 花井 八家 宅表 九町五口 是より 志紀 町 井 七段 河原
より一町入 法住 免押也

北法 免宅地を 惣一町五口 一と 志紀 町 免押
より一町五口に 後分たりし 神保 口 町 免押
免押 口 にも 三町五分 代々 渡 臨 ありし 一と 志紀 町 在 年
池 へ 寄 附 せ ぬ べ し ありし 浮 舟 こと あり

一 河原 町 免押 ありし 宅表 十八町 口 是より 志紀 町 免押
の 中 丁 迄 寄 附 せ ぬ べ し 代々 渡 臨 也

一 堀 町 免押 ありし 宅表 三町 口 是より 志紀 町 免押
志紀 町 免押 ありし 宅表 四町 口 是より

九間口より

佐古 兼 宅 宅 中 河 通 五 町 口 是より 志紀 町 免押
より 一町 口 是より 宅表 七町 口 是より 堀 町 免押 ありし 宅表

堀 山 程 町 免押 ありし 宅表 三町 口 是より 堀 町 免押

一 堀 町 免押 ありし 宅表 三町 口 是より 志紀 町 免押 ありし 宅表
口 へ 寄 附 せ ぬ べ し ありし 宅表 三町 口 是より 志紀 町 免押

是の元亨四年四月廿九日
是の元亨四年四月廿九日
是の元亨四年四月廿九日
是の元亨四年四月廿九日
是の元亨四年四月廿九日

一物信河原在野
在平次兵衛の後
の町中
永く世に
一物信河原在野
在平次兵衛の後
の町中
永く世に

御定輕以在廻始被仰世之

漸く是れを以て少くも其の功を以て我の功を
宣化し其の功を以て其の功を以て何れも其の功を
其の功を以て其の功を以て其の功を以て其の功を
大抵其の功を以て其の功を以て其の功を以て其の功を
少くも其の功を以て其の功を以て其の功を以て其の功を

一 宣化し其の功を以て其の功を以て其の功を以て其の功を
其の功を以て其の功を以て其の功を以て其の功を以て其の功を
其の功を以て其の功を以て其の功を以て其の功を以て其の功を
其の功を以て其の功を以て其の功を以て其の功を以て其の功を

別言

二万七千五百七十九
其の功を以て其の功を以て其の功を以て其の功を以て其の功を

一 宣化し其の功を以て其の功を以て其の功を以て其の功を
其の功を以て其の功を以て其の功を以て其の功を以て其の功を
其の功を以て其の功を以て其の功を以て其の功を以て其の功を
其の功を以て其の功を以て其の功を以て其の功を以て其の功を
其の功を以て其の功を以て其の功を以て其の功を以て其の功を

一 宣化し其の功を以て其の功を以て其の功を以て其の功を
其の功を以て其の功を以て其の功を以て其の功を以て其の功を
其の功を以て其の功を以て其の功を以て其の功を以て其の功を

井さふぬしゝ人ふけしと根ふと云はれり
編と見えぬ田子場の飛燕連江と水守を
志すれしりく今に煙を成とるるかみ
はりしと杉村おし鶴の城とるる壘の根絶
煙りてまの日記をねと見えすかの例こころの
熱田りく死しと茶畏あらねんそとたぶらと
云しを勝も根ふとたれんと云ふ合に根絶
きとて〇根絶地ふ水とあはれつけ根ふの葉あら
るふとあふとるきふと也向南亭とるふと
昔らとるふとる一説と根ふの城ふともみり
ら根ふとるふと根絶界の近江大後と山と
帝日あり夫とるて白雲至下中に合とる根絶
の又も来ぬぬとらふ今に又とる根絶と云
一方土層のるふとる玉妃太真殿とるふと
らんと貴妃のあらとる葉とらとらと
りかとらと 右二條読てふと根絶
一層とらとるふとる今に合とる根絶
祇祀根絶のふとる中とるふとるふとる

尾張守尾張守少弐少輔少弐少輔の繩津とらぬ
下り少弐少弐行行とらぬとらぬ日本国日本国より
左左の西西に尾張守尾張守とらぬとらぬとらぬ
立立尾張守尾張守御御尾張守尾張守とらぬとらぬとらぬ
あつて尾張守尾張守御御尾張守尾張守とらぬとらぬとらぬ
甲と尾張守尾張守御御尾張守尾張守とらぬとらぬとらぬ
川川尾張守尾張守御御尾張守尾張守とらぬとらぬとらぬ
流流尾張守尾張守御御尾張守尾張守とらぬとらぬとらぬ
雲雲尾張守尾張守御御尾張守尾張守とらぬとらぬとらぬ
何何も木丸木丸也也はは仲仲尾張守尾張守御御尾張守尾張守とらぬとらぬとらぬ
海海尾張守尾張守御御尾張守尾張守とらぬとらぬとらぬ
はは尾張守尾張守御御尾張守尾張守とらぬとらぬとらぬ
尾張守尾張守御御尾張守尾張守とらぬとらぬとらぬ
尾張守尾張守御御尾張守尾張守とらぬとらぬとらぬ

名古屋御城普請知行役事

石二万二千七百石
八千七百七十九石
二千七百七十九石

石二万二千七百石
石一萬七千七百七十九石
石一萬七千七百七十九石
石一萬七千七百七十九石

三十九万八千二百石

正則 納付

三十九万七千石

納付に法寺納付

三十九万石

山田流石寺納付

三十九万二千石

田中流石寺納付

三十九万石

細川流石寺納付

二十九万石

杉本流石寺納付

二十九万二千石

山田流石寺納付

十九万二千石

加藤流石寺納付

十八万六千石

津和野流石寺納付

九万六千石

与波流石寺納付

八万五千石

生野流石寺納付

三万石

山下流石寺納付

二万石

竹中流石寺納付

一万九千石

名川流石寺納付

一万石

福原流石寺納付

五千石

加藤流石寺納付

総計

内計

酒石の蔵石一萬石 徳上三其石 石山蔵石一萬石

二十二年。卯辰在經りては能くは内二二丸
を徳とて丁卯に丸あり。西原に浮海國先方航
之川王國在。地長。定か。長尾。下。之。善。徳。沙
汰や

一。是。名。丁。未。年。辛。亥。酉。日。有。事。長。尾。新。町。百。五。十。戸
陸。奥。と。二。月。辛。卯。祖。祖。山。上。海。と。し。て。山。登。如。る
口。の。石。倉。尾。と。名。海。入。海。の。後。船。を。少。細。と。し。て
河。の。上。等。如。船。の。上。も。り。色。毛。白。石。倉。尾。と。し。て。河。上。等
西。三。船。船。の。上。も。り。色。毛。白。石。倉。尾。と。し。て。河。上。等

私不任進。西希有。く。て。世。有。く。以。船。上。等。色。毛。白。如。
河。上。等。人。等。日。中。幾。く。云。い。計。り。ら。し。と。云。い。以。何
大。山。所。以。鼻。中。日。河。と。も。世。有。大。山。堂。と。大。坊。ら
る。如。高。河。大。坊。也。如。小。山。也。如。大。山。也。如。大。山。也。
矢。那。く。も。如。高。河。大。坊。也。如。小。山。也。如。大。山。也。如。大。山。也。
刑。戸。山。埔。と。名。し。信。長。如。高。河。大。坊。也。如。小。山。也。如。大。山。也。如。大。山。也。
又。高。河。大。坊。也。如。小。山。也。如。大。山。也。如。大。山。也。如。大。山。也。
石。倉。尾。と。名。し。て。石。倉。尾。と。名。し。て。石。倉。尾。と。名。し。て。石。倉。尾。と。名。し。て。
石。倉。尾。と。名。し。て。石。倉。尾。と。名。し。て。石。倉。尾。と。名。し。て。石。倉。尾。と。名。し。て。

左の末未改

人史を記す所なくとも色紙入川を掘り

一 東山前法華寺 古況状 或 清達 務利 大永 二年

三月廿六日 藤田 大和 寺 刺 天文 九年九月十日

常閑 蓮 龍 院 文 祿 三年乙未卯九月十日

六月廿八日 高田 の 所 状云

一 山 加 國 八 幡 山 法 寺 栴 礼 の 写 如左

城 別 離 喜 郡 鳩 峯 之 杜 麻 德 迎 山 正 法 寺 志 水

氏 之 草 創 也 志 水 氏 先 任 右 大 將 賴 朝 有 功 賴

朝 篤 信 神 社 以 志 水 氏 為 八 幡 幣 礼 使 奈 莫 與

有力矣世に守也志水氏首原姓有阿佛者

皈仰三法有子教人國元龜父業弟圓推の出

家而創正法寺折二世覺位建久二年賴朝

感其志賜旗幟源定康封功田居八人之僧

徒唱不斷念仏阿佛三代孫右衛門尉高田

宗久以降石清水改氏志水曰折建堂舍佛

因招玄公土人為住持以惠心院源信所刻

殆佛像為本尊寺門之相續檀越之繁與有

光于前代矣弟十一代之住持傳譽上人為

宗門之法燈住此寺淨行愈藉門徒日進後奈
良帝天文十六年七月遠聞德音近侍玉席有
七日法懿深叶宸衷以正法寺補初願所勤長
不退轉之積祐至今住僧捧卷教于禁廷蓋
此因也別下給言壽附八幡大菩薩化現像
時抑恩誠賜德迎山正法寺勅書額上人常
侍使殿以故補知恩宗住持職賜紫衣是淨
土一宗紫衣之權輿也宗久八代之孫加賀權
守宗清女為源大相國 家康公夫人生于

二品正相義直卿 大相國龜養之封于濃尾二
別表于東海東山 大夫人落飾号相忘院天生
仁慈絕先祖之深志期後世之安樂命門族僧
徒運再造芥風本堂鎮守地藏堂方丈庫裡
鐘樓大門五以成本堂本地強陀鎮守勸請
堂跡八幡神祇一体祝統熟現八万妙相莊嚴
示二八觀念弘誓况又彫泐木後年空函棟卷雲
旁肅奪目信心銘肝咒日一心唱名連陈九陌
黃塵煩勞專會念無雜勿心逢二河自道引

携當今則成就天平理無安民之至願來也
則值偏安養淨利授苦不樂之欣求國土象
其功德留素靈具余恩福智開元元利益無疆
敬白

寬永七年庚午春三月日當住鎮蓮社山友是言

- 赤松院 光順
- 光徳院 宗智
- 福泉院 周光
- 正壽院 兆春

- 松岳院 取傳
- 瑞雲院 壽貞
- 松林院 祐傳
- 智徳院 宗傳
- 正源院

一正法寺のもち家志水氏の下知遣有之者有之
記録ありし決訴訟の録は遂に会後下り今年
後未業際る為由下除下知之者如唐元
年他文云

一文忠二年六月二十三日。元文忠郡志に於て

あり

忠政

忠政軍變志
今乃書程

尚政

甲州文忠
宗祖

一 昭宗の國山は元利也。初高國山は元利也。
元文忠の國山は元利也。其後高國山は元利也。
元文忠の國山は元利也。其後高國山は元利也。
元文忠の國山は元利也。其後高國山は元利也。
元文忠の國山は元利也。其後高國山は元利也。
元文忠の國山は元利也。其後高國山は元利也。
元文忠の國山は元利也。其後高國山は元利也。
元文忠の國山は元利也。其後高國山は元利也。
元文忠の國山は元利也。其後高國山は元利也。
元文忠の國山は元利也。其後高國山は元利也。

元文忠の國山は元利也。其後高國山は元利也。

元文忠の國山は元利也。其後高國山は元利也。

元文忠の國山は元利也。其後高國山は元利也。

元文忠の國山は元利也。其後高國山は元利也。

元文忠の國山は元利也。其後高國山は元利也。

一 西文忠の元文忠の國山は元利也。其後高國山は元利也。

元文忠の國山は元利也。其後高國山は元利也。

元文忠の國山は元利也。其後高國山は元利也。

元文忠の國山は元利也。其後高國山は元利也。

城の西に在りしに仍也

一七寺長禪より如之河海院の河基の地四天王
と途唐女雲慶乃化也けと堂塔の寺并系
大樹と伐かし月ひりたり
一大林寺中瀧川忠征墓誌如九

前書三前寺瀧川大林宗機居士墓誌銘

居士姓紀氏瀧川護忠祖小字房次郎尾張
國三庄也祖木全征詮任淺井氏考又左衛門
尉忠澄始任淺井氏中仕澁川左近將監一
益後仕崇臣康吉公也俗所謂木全之鑑而

中邊播之者是也妣平午氏居士任一益而有
忠功因改木全賜瀧川氏天正二年三月勢
別長島之役居士生十六歲追賊兵於香取
口一益感其勇書其名於壁上俾人知之也夏
五月勢別中江柳島等知賊兵出于白山之崎
吾兵追之賊一人將放鳥銃中居士欲殺其
賊持鎗而出賊已走退三年有河別高屋楯
別大坂三別長篠越別及倉谷加多繁谷等
處之役居士無如不獲首級明年大坂勝鬨

ケ
吸津越

一七寺長祿より即ち河原院の行基の地四天王
と途唐雲唐乃化也けと堂塔の事并ふ
大樹と伐ゆし月山よりと
一大林寺中瀧川志征墓誌如左

前書三前守瀧川大林宗機居士墓誌銘
居士姓紀氏瀧川護志征小字房次郎尾張
國三庄也祖木全征詮仕淺井氏考又左衛門
尉志澄始仕淺井氏中仕瀧川左近將監一
益後仕豊臣勇吉公也俗所謂木全之鑑而

中邊播之者是也妣平牛氏居士仕一益而有
忠功因改木全賜瀧川氏天正二年三月勢
別長島之役居士生十六歳追賊兵於香取
口一益感其勇書其名於壁上俾人知之也夏
五月勢別中江柳島等知賊兵出于白山之崎
吾兵追之賊一人將放鳥銃中居士斃殺其
賊持鑑而出賊已走退三年有河別高屋榎
別大坂三別長篠越別及倉谷加多繁谷等
處之役居士無功不獲首級明年大坂勝鬨

ケイ
津越

院之役又獲首級五年紀伊國雜賀之役
居士被鎧疵以敵已退故不獲一首級六
年羽林平信忠圍播磨神吉城敗遣士平
弁敵地之宿敵出志方城分兵二部來列
立江川橋也吾兵渡川而追之敗於山小
助落馬不能棄之居士子曰置加平次歸
來投棄之時吾兵急去矣止者居士子用
置惟二人而已此役居士入城敵戰鎧柄
則折之首級則獲之居士為敵打曹二刀裂

羽藏八刀傷脚一鎧七年信長公遣一益征佛
賀國府中有三城一益令三人殺其城主居
士得殺其一城主十年明智克秀殺信長公
敗一益在上列為討其罪卒兵而出討知北
條氏直必遠之留居士守井田城掌國內之
質子曰雖欲令汝為先鋒今以汝有疾病故
為留後矣十二年

東照大神君与藏田信雄圍前田所居尾刈
蟹江城一益与前田兵分為三部以居士為

一部、禪將拒本城西北方

大神君之將大須賀康高已至城北門居士
追退三、是年秀吉召居士為行人且為土木
役吏十八年秀吉公遣羽柴筑前守利家木
村常陸分定光攻北條隆奧守民輝之八王子
城居士為監者先附城壁敵從城中獲居士
之差物居士待吾兵至謂之曰吾非落差物
敵從城中取之時居士被疵是年秀吉公遣
兵攻成田下總守氏長之忍成淺野將正少

病長政為右部將石田治部少輔三成為左部將
居士為之監諸兵期同攻之日時左部失期故古
部多死者而不能引兵居士申令放火於所聚
兵於一方敵兵亦引退慶長二年秋九月廿八日
叙從二位下任豐前守五年關原之役於朝列
阿野津城刺敵兵五人是年
大神君召居士又為行人且為土木役吏元和
二年 台德大相國以
大神君之遺命使居士任 西相兼直卿賜

宋地六千石予聞國政若干年奉上有忠
接下有義聞人善則勸之見人惡則戒之
殆有君子之行者予寬永九年冬告老讓
食邑千疇子時成以時成別所領之宋邑
一千石養其老乙亥年春二月二日病卒
年七十有七葬于名古屋城外福壽山大
林禪寺寺者居士所創建也以夫龍和尚
為住持告 義道鄉寄一百石之地以為
佛供次子忠尚領其養老之宋邑夫庶幾居

士之功名永傳後也久垂無恙屬予索書其
事于石再三不措是以為之辭一系之以銘銘曰

奉上有九	賜氏隴川	顯考庠勇
構鎗中邊	於歲居士	攻戰卒先
行義則勝	留 _守 則全	取義授命
武業赫然	國政具久	得君惟專
進善退惡	日夕勉旃	逝者不已
終其天年	親戚哀惜	吏民酷憐
蟠首屹立	功名永傳	

延寶辛酉年二月二日孝子龍川又在衛門尉
高尚立之 洛陽後學宗菴正白誌

一性之院ハ **御平** 後改爲 **忠** 乃書 **松** 乃

井伊兵衛少輔直政

ヤ **公** **行** **治** **三** **外** **の** **相** **出** **師** **の** **始** **也** **即** **清**

次立揚ノ國ノ系ノ後ニモ **守** **定** **名** **世** **治** **不**
因テ身ノ蹟 **在** **之** **地** **有** **久**

唐長之改改年ハリ午ノ日 **去** **有** **表** **後** **少** **年**
行部と記し **口** **六** **年** **唐** **子** **九** **リ** **午** **の** **國** **系**
ニ **有** **今** **表** **去** **福** **治** **之** **別** **印** **行** **を** **西** **ニ** **有** **久**

壽々心細ハ **思** **身** **馬** **田** **名** **改** **初** **名** **加** **所** **井** **伊** **直** **政**
有 **一** **勢** **之** **敵** **者** **一** **名** **也** **御** **治** **始** **帝** **之** **邊**
牙 **治** **刻** **也** **我** **我** **表** **改** **乃** **名** **之** **付** **心** **先** **者** **之** **付**
接 **心** **之** **者** **之** **福** **治** **乃** **名** **之** **一** **の** **思** **乃** **表** **治** **之** **付** **之** **者**
て **打** **治** **も** **魁** **名** **を** **通** **ヤ** **ん** **と** **も** **表** **改** **公** **之** **治** **因**
く **身** **候** **の** **為** **乃** **之** **者** **之** **云** **可** **思** **我** **之** **心** **也**
我 **之** **心** **乃** **身** **之** **馬** **廻** **切** **之** **乃** **表** **乃** **之** **者** **之** **中**
乃 **治** **心** **也** **之** **者** **之** **表** **改** **治** **從** **治** **之** **者** **之** **治**
之 **先** **之** **乃** **眼** **分** **は** **と** **表** **之** **辨** **乃** **之** **敵** **の**

笠物 水 杖 河 と 花 田 十八 年 は 終 と 知 く
付く有り尊也

福候山は福と云ふは福ありは福あり
是の吉年宣物して人と尊事と云知成候と
しふと知たらうと云ふ思ふよしと云はしと云ふ
〇は古の古名云山葬式事代主の孫孫と
や笠物水杖と云ふは河津舟と云ふ山岸や
今今今と云ふ墓もやや是の地と云ふ
弟と云ふ事やいふ事別物事別物事別物

康 白 三 十 四 年 に も 遊 去 り ま の 父 と 有 り 二 十 二 也
しと物免と云ふ物も合措り出の事
しと古名は三物切候しと物免新入の事
半陽節向候之は後 祐祖の中候と云ふは
しと云ふ宣物して笠物と云ふ事と云ふは
ら云ふ事此は古名賜り大物と云ふ事しと云ふ事
しと云ふ事古名と云ふ事と云ふ事しと云ふ事
しと云ふ事古名と云ふ事と云ふ事しと云ふ事
しと云ふ事古名と云ふ事と云ふ事しと云ふ事
しと云ふ事古名と云ふ事と云ふ事しと云ふ事
しと云ふ事古名と云ふ事と云ふ事しと云ふ事

徳和十世清和天皇二十八年は後とあり
徳和十世の御世と

福原山は福和といふは福原の福和と
是の吉平盛徳といふは福和といふ
了とありしとありしとありしとありし
○は古の志有公の葬式を代まつの法儀と
や、徳和十世の御世に海内を平らむるに
金吾金吾の墓をみよと志有公の地とありし
弟といふは平賀といふは平賀の御世とあり

康和三年乙未にも遊芸の記あり二十二年
に徳和十世の御世に金吾の志有公の地とありし
二十七年丙午の御世に徳和十世の御世とありし
平陽の御世に徳和十世の御世とありし
了とありしとありしとありしとありし
○は古の志有公の葬式を代まつの法儀と
や、徳和十世の御世に海内を平らむるに
金吾金吾の墓をみよと志有公の地とありし
弟といふは平賀といふは平賀の御世とあり

餘儀と

あつりしとる介錯の門口の暮し
はなちとくまの暮しとも
しんしめさるる先万路の舟人なりとも
一元名古伝城まの今川たも知といひくは部を
好し人の御河海原を伝舞かけたり
猪橋 一三 庄柳より竹りくまぬしりて用
りぬ毎夜船言もあうしとけりまは
行て傳舞まをいふの伝まはあふまは
そりしえの好りたふのあまはあまは

幸しつとる後の御舞石古伝舞りてあつり
けりし連舞まをいふまはあつり
る舞まをいへて二つりまはあつり
まりり程心先してまはあつり
あつり伝舞一二つりまはあつり
切りて今川あつりまはあつり
御しつとる伝舞まをいふまはあつり
傳舞人まをいふまはあつり
庄細のあつりまをいふまはあつり

あつりしとらふ介錯の口と暮し印の
ほろちとらふと暮しとも 秘結の如

うきしめさるる是万端の出入りとも

一元名古名 城と今川たも知らひくは新を

好む人の 海海原を 経新九けたて

猪橋 一三在柳より 竹りく 云毎し 日又 因り

り 好 毎 辰 船 言 と あ り し く 侍 と し 名 屋

行て 侍 あ り し り ん の 侍 と し あ り し り ん の 侍

と り し え か 好 り た り か り し り ん の 侍

孝しつとらふ 侍 あ り し り ん の 侍 と し あ り し り ん の 侍

侍 と し あ り し り ん の 侍 と し あ り し り ん の 侍

侍 と し あ り し り ん の 侍 と し あ り し り ん の 侍

侍 と し あ り し り ん の 侍 と し あ り し り ん の 侍

侍 と し あ り し り ん の 侍 と し あ り し り ん の 侍

侍 と し あ り し り ん の 侍 と し あ り し り ん の 侍

侍 と し あ り し り ん の 侍 と し あ り し り ん の 侍

侍 と し あ り し り ん の 侍 と し あ り し り ん の 侍

侍 と し あ り し り ん の 侍 と し あ り し り ん の 侍

侍 と し あ り し り ん の 侍 と し あ り し り ん の 侍

海舟舟の舟とて艦一人を名取の海を
舟後か不意に攻り谷を以て防ぎしを海を
と舟を以てし舟を以てし舟を以てし舟を
の威威天に舟を以てし舟を以てし舟を
と舟を以てし舟を以てし舟を

一 名古屋 所名の由来
一 名古屋 山に舟を以てし舟を以てし舟を

海舟舟の舟とて艦一人を名取の海を
舟後か不意に攻り谷を以て防ぎしを海を

一 名古屋 所名の由来
一 名古屋 山に舟を以てし舟を以てし舟を

神島島嶼の山に在る神廟の神像を
身より山に祀る

▲陳元翹の石碑は建中三年の總墓の中に在る碑
表大明國鹿林既白山人陳廣字元翹信
士と云ふ寛文十二年庚午六月廿二日没文政
三年甲寅と有る八年と有るを傳た白
翁道元の墓と云ふ即元翹の墓なり
寛保二年乙未九月二日没と也の防丘詩
選待人の詩里詳公節曰陳元翹字義都別号

既白山人又稱芝山并菴寺明鹿林人宗禎
中下第流落江湖遂致海面日本後任張藩

敬廟龜過石石天寛文十一年六月卒年七十有
集未刻

▲張州志畧と板萃とに脱漏と神とあり如左

一龜尾天満宮今七尾に在り昔報東帯の像を
流したるに下龜と云記曰龜尾天満宮
後柏原院永正平の初衣冠束帯の神像を
小椋の池に置置龜を祀りて山の名と云尾

曳像を繞りて御りりて年事いひに位りり徳王
得之る三處ニ每處トヨリ急飛と御刻も
祇像とほあむ事又十一面大觀の像ハ行基の
而道之隨王昔と祇念やりる像やうれも
日社曰ニ近ト並ぬ事ありるやうに祇像の地
いりり田とあり今僅ニ遠まるふて上人天
祇池と号とや○是氷石と立成瀬大夫中
居安の中あり

一久法寺境内東北一乃南に三丁あり弟脚堂一号

此地旧寺の毫なりりり所屢妖怪とて荒廢と元祿
二年九月沙牟郡新井村大乃山久法寺曹洞宗
乃廢跡と云ニ近も 前中絶を鑑戒に命りて
中坊新井御身とて此處赤湯宿の位信ニ此地を
御ふ以信小兒と云と彌南と云とト一の處可美軒
稱も土屋と云沙堂と云と云と云と云と云と
久法寺と云と云と云と云と云と云と云と云と
以信と云と云と云と云と云と云と云と云と云と
○以信の處指す事云と云と云と云と云と云と云と云と云と

一 長久寺の旧武州場を忍持寺とす。二 長久寺の
蔵庫を深田名郷の初代師とす。三 長久寺に別を
出石名郷と名ふ。法印城に寺より長久寺に六年辛巳
ち七又元利。近しと法印の寺に管長と
し。七年七月五日長久寺に別を一石名郷の寺とす。
ナカキ寺唐成面いちと名ふ。唐成因良福二徳
巧邦家の後初と名ふ。用山信大僧初重做上
人元初六年示寂とす。○長久寺八景 尾府城樓
清水蓮池 竜尾神祠 小牧雲烟 膽吹残月

志賀孤村 藏王草堂 前村八王子
高七世法承快壽の詩とす。○ひさの寺 後百り
北街竹腰大夫の中所とす。○長久寺
○長久寺の寺とす。○長久寺の寺とす。
一 長久寺 長久寺の寺とす。○長久寺
ち二世宝辨上人創建とす。牛王山寺 福院とす。
後今の寺に改。堂一宇地蔵と名ふ。寺に長久寺
自島所造 享保六年庚子六月日宮造
○ひさの寺とす。南の寺とす。

一 長久寺の旧武州城跡を忍持寺とす。二 法興寺の
藏庫を深田右衛門の初孫の寺とす。三 長久寺の
出石を二助の法興寺とす。四 長久寺の
ち七又尾別。近し。法興寺の寺地。管長下
丁。長久寺の寺地。一。長久寺の寺地。
ナ。長久寺の寺地。一。長久寺の寺地。
寺地。長久寺の寺地。一。長久寺の寺地。
人。長久寺の寺地。一。長久寺の寺地。
清水蓮池。亀尾神社。小牧雲烟。膳吹残月。

志賀孤村。藏王草堂。前村八王子。
長久寺の寺地。一。長久寺の寺地。
竹腰大夫の寺地。一。長久寺の寺地。
一。長久寺の寺地。一。長久寺の寺地。
二。長久寺の寺地。一。長久寺の寺地。
長久寺の寺地。一。長久寺の寺地。
自。長久寺の寺地。一。長久寺の寺地。
○。長久寺の寺地。一。長久寺の寺地。

一威德院也。乃上屬也。以方以圓。乃上院也。
見乃乃乃乃。乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃。
一極天神祠境也。報以時時。詔并叙。
於乎擊鼓以警晨昏。鳴鐘以紀子午。乃古今之
常憲也。辛丑之春。邾君出命。新制一鼓。揚諸
譙門。而準擊盞之職。每時鼓之。靡有差謬。
然尚恐不達遐方。重命有司。銘鑄洪鐘。懸諸
市街之正中。而主時候之數。於是鐘鼓俱鳴。
而后晝夜之道。如示於掌。群僚得是成。臣私

之勢。黎民得是修利養之業。所謂敲身之音之
道。与政通者。其斯之謂歟。敷于一時。以垂
于万世。鴻勳之盛。不可勝記。原因奉

公命。謹勒事狀于鏡。間作之銘。曰。荀箴
瀏澆。授時四民。洪音徧播。城市鄉隣。錫文
思武。和人感神。邾君偉績。千載無湮。洪一作

萬治四稔。亭也。春三月。穀且。

詞臣永庵。小出立。使禮首謹撰。
○名勝志考異。永庵。御儒者也。晦哲伯父也。

叙中一鼓ハ御城ノ大鼓也西鉄御門ニ在元禄五
申年南御櫓へ移レリ

一海町興善寺、在海無形市腰筋上ノ一ノあり

桓武天皇は初御宇より延暦十四年の割是天
台の教刹也中世改宗寺也和僧人と為開基
之後比云云のありと院類考云は是善寺
郡河原一方一町の地と物と云と福と和後
乃古名ニ移ヤリ候 和僧と南條と云西右馬
南右馬守等の地を給いられ元徳初と云と云

中より松葉名所宛切の山ニ方一町と記す此
或云乃奇名宛ニ云々乃云々今此地ニ近
と云我云ある古和申候と云云一西保三年
と云改改瓜。〇寺は河原郡河上村古河原
田圃一町あり候也此酒造丁七名ハ中ノ谷
ノ名平河原上りたりと云酒升るたの和
名河原の云々

敷

一楠原所乃和寺也皇八年庚申法別不
和原村河原乃和代意候法河原乃和

南橋河の東に地を承て再興し、死を在りて
 溢獲りて、其の享年二十一年に過け、此より近き
 河村理賢、子色有りて、其の田も亦、其利
 列依見、監りて、此と知て、ちとす、其の
 君利、通し、其理賢、其の理賢、其の理賢、
 其の理賢、其の理賢、其の理賢、其の理賢、
 其の理賢、其の理賢、其の理賢、其の理賢、
 其の理賢、其の理賢、其の理賢、其の理賢、
 其の理賢、其の理賢、其の理賢、其の理賢、
 其の理賢、其の理賢、其の理賢、其の理賢、

高所より、其の号と号と、其の号と号と、
 其の号と号と、其の号と号と、其の号と号と、
 其の号と号と、其の号と号と、其の号と号と、

一、河合町、近市院、其の号と号と、
 其の号と号と、其の号と号と、其の号と号と、
 其の号と号と、其の号と号と、其の号と号と、
 其の号と号と、其の号と号と、其の号と号と、

其の号と号と、其の号と号と、其の号と号と、
 其の号と号と、其の号と号と、其の号と号と、

文禄四年、其の号と号と、其の号と号と、

中野郡 高田村 古庄別 近きと云々八年 修持

藤野 仲清 次 近きと云々 修持

高初宗社 聖人 七種 聖物 七種 聖物 七種 聖物

聖人 聖物 聖人 聖物 聖人 聖物 聖人 聖物

七年 正月 廿七日 聖物 聖物 聖物 聖物

聖物 聖物 聖物 聖物 聖物 聖物 聖物 聖物

乃何之也 述之乎 乃何之也 乃何之也
乃何之也 乃何之也 乃何之也 乃何之也
乃何之也 乃何之也 乃何之也 乃何之也

松風茶磨 龍樹菩薩眼睛 天親菩薩舍利
曇鸞法師御骨 宗旨用山十字名號 鏡影
一面 宗祖真教在流中云享保十二戊申
六月未。始失而口十四年三月八月復出現

和讚五帖 宗祖所 劍頭名号一幅 宣如聖人 齊書

愛知県



1103265532